

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあすか
(ユニット名)	3階ユニット
所在地 (県・市町村名)	愛知県名古屋市天白区
記入者名 (管理者)	後藤美穂
記入日	平成 19 年 7 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ボランティアの催しの際地域の方への案内、地域交流については、推進会議にて委員のご協力をいただき、参加活動をしている。地域に支えられ生活できることが、利用者にとり安心でその人らしく生活できる環境である事とし、理念を掲げている。	○ グループホームが、地域に開かれた場となるように推進会議をとおり、発信している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、目標(1ヶ月毎)を立案、中間見直し、評価を会議時確認し共有している。	○ 年間目標に向かい1ヶ月毎の立案、見直し、評価に加え、個別面談の機会を、増やし共有していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族にはあすか通信、地域の方には推進会議委員を通し日々の暮らしを、発信している。	○ 利用者自ら、行きたい時行く事ができる喫茶店、理髪店への協力、家族理解を得た。今後取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	動物を通し、交流を始めることができた。また、散歩の際声をかけていただいた方との音楽交流の予定もある。	○ 気軽な立ち寄りについて、努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧版の活用を拡大し、常に地域活動に関する情報を把握している。芋畑、梅畑を利用させていただき、交流に努めている。	○ あすか情報を、回覧板に掲示できるよう、依頼している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進委員からの提案もあり、独居生活をされている高齢者との交流等を、予定している。	○	音楽を通し、茶話会を予定している。地域の研修の場があれば、積極的に参加をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を活かし出来ることから改善取り組みをしている。前回の自己評価の把握をし、改善に至っていない項目について具体案の検討をしている。	○	改善計画を作成し、取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意義ある会議が実施されている。地域子育てサロンへの参加は、若い世代の方との交流を楽しんで参加されている。	○	モニター役となり、いつでも来訪していただけるよう配慮したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表は市町村との連携を密にし、管理者にも情報提供している。区職員の来訪時には活動内容等も話をさせてもらっている。	○	管理者自ら働きかけを、していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域推進委員の中に権利擁護事業をされている方がおり、会議の折に話を聞く機会がある。職員への理解体制は万全ではない。	○	学ぶ機会、研修に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員教育を強化しており、細心の注意をしている。言葉の虐待等、危険に発展するような発言等の指導は見過ごす事がないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを常にしており、理解いただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情を見逃さない、傾聴する、を支援の基本と考え職員教育を徹底している。苦情については、その場で解決している。利用者の要望、意見を常に尋ね、利用者とする場合もその都度もうけている。	○ 利用者との話し合いで役割分担表を作成。それに添ったケアをすすめている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	あすか通信、週毎のご様子報告、バイタル表、等定期的に報告をしている。変化のある利用者に対しての電話連絡はこまめにしている。	○ 管理者は、1月2～3名の家族に1筆手紙にて、交流を図るようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、お声掛けをし、意見をお聞きしている。職員には苦情を受けた際、速やかに報告するよう指導、苦情処理記入、会議において再発防止に努めている。	○ 家族との信頼関係ができつつあり、個別に相談、手紙などをいただき、話し合いの場をもうける事ができつつある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議時各ユニットにおいて、意見、提案を聞く時間をもうけている。その他適宜面談にて意見、要望を聞いている。	○ 会議時には言い難い部分が多々あると思う為、個別に機会をもうけ、意見を聞く努力をしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各リーダーを中心に話し合い、調整している。個別対応できるよう努めている。	○ 利用者の状態の変化に応じ2F・3F職員の柔軟な体制、管理者の対応できる体制がとれている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対し、個別対応し配慮している。離職を未然に防ぐ事のできるよう、面談をし、チームの大切な一員である事への理解を促している。	○ 基本的には正職員の固定、パート職員においても固定化し、馴染みの環境を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の個人レベルに合わせた研修項目に沿って計画、実施している。</p>	<p>○</p> <p>定期的に他のグループホーム(同社3グループ)への交流研修を取り組みたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>勉強会には至っていないが、交流会に参加をしていきたい。</p>	<p>○</p> <p>第一回分科会に参加。今後も積極的参加をしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>悩み、相談等、気軽に話しのできる機会(食事会)等を計画している。休憩室の確保はされている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修費等負担、本人のレベルアップへの協力をしている。頻回に現場に来ており、利用者、職員の把握をしている。</p>	<p>○</p> <p>資格取得に協力的であり、取得後の労働環境条件を検討している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメントを十分に行い、状況把握をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメントにて要望を受け止め傾聴、介護計画立案を提示している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況の把握をした上で、あらゆるサービスの提示をし、本人家族との相談を密にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得のいくまで自由に見学、来訪できるよう窓口を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	意思決定を導くことができる支援を配慮し、その人の個性をとらえ、活躍できる場を提供している。	○	常に職員は利用者を人生の先輩とし敬う気持ちを持ちつつ、生活歴や趣味に応じた活躍ができるよう配慮している。また、相談を持ちかける職員もいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの不安、訴えを受け止め、安心できるよう、状況説明を十分に行っている。	○	共に本人を支える関係の構築に今後も努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃のご様子報告、相談をしている。来訪時には面会が本人のつながっている報告も添えている。	○	状況に応じた外出、外泊の勧めなども積極的にお願していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り今までの生活の継続ができるよう、知人、友人訪問を積極的に働きかけている。家族は勿論のこと、近隣の方、旧友の方の来訪もある。	○	来訪だけではなく、本人が出向く事ができるよう配慮していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	外食、喫茶等、全員で行く事を見直し、気の合う仲間と行きたい場所、行きたい時に支援できる方法をとっている。	○	気の合う仲間と気兼ねなく交流ができる場とし、和室の活用をすすめていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養等の退居者に関しての面会等をしている。	○	本人の希望や家族の了解を得る事ができれば本人の状況を把握した上で、行事参加をしていただけるよう配慮をしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンス等、生活シート、気付きのシートを使用、利用者の変動に即時対応できるようにしている。本人の希望をさりげない会話の中からみつける努力をしている。	○	家族面談時、ご本人とご家族を含め話し合える機会をもうけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスにおいて、十分な話し合いをしている。(できることシート、できないことシート、好きな物、嫌いな物シートの活用)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別支援を重視、出来る限り、したいとき、行きたいときを見逃さず支援している。できる事を最大限に活かす努力をしている。	○	利用者の変化にすばやく対処できるように鋭い観察力、洞察力を身につける事ができるような職員育成に力を入れていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に2回のユニット会議において、十分な話し合いをしている。家族の意見を前もって調査し、取り入れている。その人らしさを常に念頭におき、接している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直し、評価を行っている。変化の度に、緊急会議を開催し、現状に即した計画を立案している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌記入の充実、気づきの記録を徹底し、職員間の共有を図っている。申し送りノート、日報を確認後、勤務に入る事を義務づけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、話し合い、退院等、必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアとの連携にて、踊り、将棋、ハーモニカ等の来訪、また子育て支援サークルへの活動に参加している。	○	地域の図書館利用を積極的に行っていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャー、サービス事業者との話し合いの機会はないが、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援との協働はしていない。	○	事業所内での困難事例が少ない為、協働はされていないが、今後は検討し、窓口を開きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には提携医の紹介、家族希望を尋ねている。希望がある場合には、職員が家族に代わり同行し、受診対応している。	○	歯科医の訪問診療を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医よりの紹介のもと、随時相談できるよう協力が得られる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護パート職員がおり、看護についての知識等、健康管理についての話し合いを常時している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時の面会を通し、医師との相談機会を設けている。入院時にはサマリーにて、支援方法に関する情報提供をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族要望と考え、日々の変化、状態報告を密にしている。本人が安楽な生活を保つ事ができるよう第一に考慮している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアについては今後の課題と考えてる。	○	終末期ケアについての職員の理解、意欲、考えを十分に確認し、方向性を持ち努力をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリー・ケアプランの提供にて、継続ケアが出来る限り続くよう情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ、対応については、服務規律の繰り返し確認、個別指導を徹底している。教育プログラムにて3ヶ月に一度の自己評価をしている。	○ 自己評価をもとに、管理者との面談の時間をさらに作っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別援助、できること、できないことの把握が全職員で共有化できるようカンファレンスしている。	○ 選択肢の提案においても、意思表示がどこまで可能であるか、どのような選択肢で決定できるのかのレベル把握をするよう指導している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の時間の流れに沿ったケアができるよう、臨機応変対応がスムーズに行えるよう職員間で、連携、支援している。	○ その人がその日にしたい事がしたい時にできるよう配慮する事の大切さを常に話し合い、努力している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関しては自己にて選択していただけるよう支援している。理美容来訪時には要望を伝えられるよう支援している。	○ 近隣の理髪店へ行く事のできるよう要請した。家族理解を得た利用者もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立提示、書きもの好きの利用者にメニューを記していただいたり、それぞれの残存能力を見極めた支援をしている。	○ 食事についての生活リハビリを中心に重視すべき指導をしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病歴等の把握をしながら、ご本人の嗜好をできるだけ支援できるよう、工夫している。	○ 煙草についても屋外にて喫煙希望者が利用できるよう提示していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンが把握できるまでは、表に記載し、いち早く把握できるよう努力をしている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	タイミングを見逃さない。希望があればいつでも可能な準備をしている。	○	朝風呂の体制はできているが、夜間入浴体制について検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心した休息ができるよう、声かけを大切にしている。空調管理にも配慮している。昼間の活動を活性化すべき支援を配慮している。	○	薬剤のあり方についての話し合いは常に行っている。服薬に頼らなくても精神安定がはかれるよう声かけの工夫を努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気の合う仲間同士の談話、気分転換の声かけには配慮している。環境づくりにおいても和室を提供している。利用者の指導のもと梅干や漬物のつけ方等を職員が教えていただけるような工夫をしている。	○	役割分担表にて生きがいを持っていただくよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	残存能力を見極めた支援をし、利用者が財布を持参し、買い物ができるように配慮している。	○	事業所で管理している方においても外出時の支払いをご自身にてしていただけるよう工夫する努力をしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買い物は常に行っている。手作り弁当を持参し、外出にも行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中で行ってみたい所の把握をしている。実行していきたい。事業所において年2回のバス旅行をしている。	○	公共交通機関を利用した外出の取り組みをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できる。手紙についても希望がある方については支援している。	○	事業所通信送付時、一筆直筆の手紙をと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室、フロアーにてゆったりと過ごしていただけるようイス、テーブルの用意をしている。面会時間は定めておらず、都合の良い時間に来訪していただけるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為の把握をしている。入社時に説明、理解、把握を義務づけている。	○	玄関ドアの施錠についてのアンケート、職員理解の把握調査をしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員の理解が得られない為、危険回避についての見直しに取り組んでいる。弊害についての理解はされている。	○	玄関ドアの施錠についてのアンケートの実施、全ての職員の理解が得られるよう取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動パターンの把握をし、配慮している。24時間安全配慮をしている。夜間においても行動の見守れる場所で休んでいる。	○	夜間において、2時間おき(特別な場合は除く)の巡視、すぐに夜勤者に知らせる事のできる声かけをし、普段から2Fとの交流ができるよう声かけをしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活能力に応じた支援、環境整備をしている。	○	利用者の状況と照らしながら、危険物品の管理、検討をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	同じヒヤリをしないよう、ヒヤリハット報告の検討を早急に実施している。カンファレンスにおいて、危険予測についての話し合いをしている。	○	個々の危険予測を一覧にし、職員間で共有認識する機会をもうけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急指導(2回/年)実施。必要に応じ研修も行っている。	○	救急手当での勉強会もすべての職員が年1回は実施するよう義務づけたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練(2回/年)実施。地域の人との協力を働きかけていきたい。非常用食料・備品の準備はしている。	○	推進会議の議題とし、予定としている。非常食、備品の定期的確認を確実に実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族希望を受けながらも、本人の安心安楽な暮らしを支えるための方針を説明、話し合いをしている。	○	リスク対応の話は、平日頃から行っているが、記録とし残し、話し合いの機会を増やしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りの徹底にて、すべての職員が共通把握に努めている。勤務に入る前、バイタル表、申し送りノートにて把握する事を義務づけている。	○	報告、連絡、相談を確実に全職員が行えるよう指導している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性を学習し、全ての職員が二重チェックの(内服時)必要性を感じており、チェック欄を設けている。薬の変更時には、赤字で記入する等、ひと目で理解できるよう工夫している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認、表記入にて把握することが義務づけられている。朝食時牛乳、ヨーグルトを飲用している。散歩、体操への参加を働きかけ、予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをし、個別の力に応じた配慮をしている。	○	重要性を理解した上で、専門講師による研修を実施したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、特に注意をし、1日の目安を把握している。食材メニューにカロリーが、記入されており、摂取記録を確実にやっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、確認を義務づけている。インフルエンザ予防に関しては職員共に予防接種をうけている。	○	定期的な勉強会の実施を、計画している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等、毎夜ハイター消毒にて管理している。検食を実施、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花を植え、親しみやすい工夫をしている。	○	催し事など外で行える行事を、出来る限りしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV音、職員の声等、配慮している。照明についても、日差しの加減に注意し、強弱の調節をしている。家具の配置は利用者に相談しながら居心地の良い場所となるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になったり、気の合う利用者同士で過ごせる和室がある。気軽に利用でき、くつろげるソファもフロアーに設置してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等の利用を声かけしている。写真、使い慣れた日用品の活用でいままでの生活の継続が保たれるよう工夫している。仏壇を持つ利用者もみえる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を常に行い、職員の感覚でなく利用者に応じた調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、フロアー要所に手すりを設け、安全配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に環境に配慮し、混乱のないよう、努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、季節の花、野菜を植えている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

チームコミュニケーションの大切さ、利用者の笑顔は私達の笑顔から成り立つ事を会議において確認をしている。職員が明るい、との評価も近隣の方、家族の方よりいただいている。その人らしさを大切に、日々の気づきを職員が共有しており個別の支援を行っている。外食、喫茶、散歩支援は、行きたい方と行きたい時に、行きたい場所へを目標とし工夫している。更なる努力をし利用者、家族の満足が得られるよう利用者と共に歩んでいきたいと思っております。